

第9回山ノ内町議会報告会実施結果報告書（南部）

日 時	平成28年2月6日（土）午後3時00分～午後5時15分まで
場 所	ほなみふれあいセンター
参加人数	住民参加者41人 議員11人 事務局1人
地元協力団体	南部地区協議会・南部公民館
議員役割分担	<p>総括責任者 児玉信治</p> <p>司会進行 児玉信治</p> <p>常任委員会報告者</p> <p>総務産業常任委員会 湯本晴彦</p> <p>社会文教常任委員会 渡辺正男</p> <p>広報常任委員会 布施谷裕泉</p> <p>議会運営委員会 山本光俊</p> <p>総合計画審査特別委員会 布施谷裕泉</p> <p>記録者 望月貞明</p> <p>出席議員 山本光俊・湯本晴彦・布施谷裕泉・西 宗亮・望月貞明 高山祐一・渡辺正男・児玉信治 ・小林克彦・山本良一 小渕茂昭</p>
次第(担当者)	<p>1. 開 会 司会者 児玉信治</p> <p>2. あいさつ</p> <p>(1) 主催者 議長 小渕茂昭</p> <p>(2) 共催者代表 南部地区協議会長 田中文二</p> <p>3. 報告事項</p> <p>(1) 議会常任委員会報告</p> <p>①総務産業常任委員会 湯本晴彦</p> <p>②社会文教常任委員会 渡辺正男</p> <p>③広報常任委員会 布施谷裕泉</p> <p>④議会運営委員会 山本光俊</p> <p>⑤総合計画審査特別委員会 布施谷裕泉</p> <p>(2) 質 疑</p> <p>4. 懇談事項</p> <p>テーマ「人口減少と持続可能な地域づくり」</p> <p>5. 閉会 閉会あいさつ 共催者代表 南部公民館長 小林利信</p>
報告事項の質疑と懇談会意見をまとめて進行	<p>質問：バス会社は路線バスを28年9月で廃止の意向を示しているが、過去に菅・角間線の土・日曜の運行を廃止し運行補助金の減額や、南部地区の謝恩旅行で毎年4台のバスを依頼し協力しているので、菅・角間線の存続を。</p> <p>回答：バス会社は町からの補助金で赤字補填しても、利益のない路線は廃止したい意向である。議会は危惧している案件で、一般質問等でも取り上げられてい</p>

る。27年度の補正予算で地域交通システム再構築調査費を計上し、行政は地域公共交通の検討をしている。

質問：町は廃止が決まっている保育園や小学校の耐震化とか、箱モノ修繕にお金をかけ過ぎている。それよりも高齢化社会に向け、地域のバス路線存続にお金をかけるべきだ。

回答：廃止や統合といった方針があっても、公共施設として使用している間は、安全性を考慮し耐震化を進めてきた。

質問：若者定住対策の新婚むけアパートの家賃補助の金額と件数はどのくらいか。

※ 当日の回答に誤りがあったので訂正して回答します。

回答：婚姻届の提出から3年以内で、世帯主もしくは主たる所得者が40歳以下の方が対象で、昨年度は20件423万円。また、若者定住促進の住宅改修補助では、50万円以上の工事に補助率30%以内（上限が50万円）で、昨年度5件237万円の実績があった。

質問：中野市・小布施町・須坂市は、雪が少なく住みやすいため移住が多い。下条村では、村長・議員の報酬を減らし、村営住宅を安く提供し、都会から若者が大勢移住しているが、当町は人口減少でかつての明るさが見えない。報酬は議員が検討して決めたということで異論はないが、議員には、お金だけではなく町の将来の発展を考えて取り組むよう要望する。

回答：下条村の伊藤村長は民間会社の社長で実行力があり、若者向けの村営住宅を年1軒のペースで建てている。村は飯田市に近いベッドタウンで村営住宅は人気が高く、人口も増えている。下条村の例は参考にしていきたい。

質問：子供の目線では学校統合はいた仕方がないが、大人の目線では地域の文化がなくなるので反対の意見がある。現在、スポーツの原点である子供たちの遊びが制約されており、文科省の体力テスト成績も年々低下している中で、小中一貫校になって、今の敷地の中でプールや運動場などの施設のやりくりをされたのでは、子たちがかわいそうだ。学校統合は慌ててやることはない。現有施設を有効活用し2段階の統合でもよいのではないか。

回答：総合計画審査特別委員会の付帯決議にあるように、議会では小中学校の教育環境整備は慎重に進めること、子供の権利保障の視点に配慮した教育行政を進めるよう求めている。

小学校を中学校の敷地へ移転するには、遊具がある第2グラウンドが必要で、安全性からプール、体育館は複数必要になる。また、スクールバス通学、

校舎内の安全性にも配慮が必要で、慎重に進めるべきと考える議員もいる。

資料に掲載しているタイムテーブル（素案）は、全員協議会での説明資料を改正したもので、追加・削除された項目がある。統合の年数（34年）と中学校の敷地内の条件での統合には、議員の中で意見が分かれる。議会として皆さんの意見を十分聞いて対応していきたい。

意見：高齢化社会の医療費を節減し、町財政を健全化するためにも、生涯スポーツが定着できるようにしてもらいたい。

後日回答：一般質問等でも取り上げています。スポーツ推進計画（H28）の中に反映できるよう働きかけていきます。

意見：統合によってスクールバス通学になると、南小学校が培ってきた体力が落ちることが危惧される。陸上競技で日本記録を出す1億円の報奨金を出す時代である。観光と農業の町であるが、子どもたちを運動の面でもっと優遇するようにしてもらいたい。

後日回答：子どもたちのスポーツ活動への支援は、現在の経済的人的支援の拡充も含め、スポーツ推進計画に反映できるように働きかけていきます。

質問：西・北小統合の理解は進んでいるが、1校統合は6年後ということで、町からの説明が不十分で保護者の間でも理解が進んでいない。もっと詳細を明確に示して進めてほしい。

回答：学校統合は総合教育会議で方針が出され、提示されたタイムテーブルもある。教育懇談会のどの会場でも意見が出てないのは、保護者の皆さんが、何を質問していいかわからないのが現実ではないか。今後も一般質問等で、内容・課題を皆さんに分かるようにしていきたい。

質問：病後児保育は、春から中野で始まっているが、町では行われていない。若者を呼ぶならもっと子育て支援策を他所より先に実施してもらいたい。また、病後児保育に、小学生を含めて進めてもらいたい。

回答：病後保育は、町保育所運営審議会で要望が挙げられているのは確かだ。中野市は北信総合病院と提携し進めているようだ。町も一緒に進めるよう働きかけているが、実現していない。保育環境は、28年度から休日保育料の無料化、未就園児の一時預かり保育料を月2回まで無料化する。合計200万円程の負担軽減になる。通常の延長保育料も月2回まで無料化にする。病後保育については今後、要望していく。

後日回答：病後児保育については、場所・医師・看護師などの確保が困難なことから、現状では実現が難しいということです。広域的設置も含め、引き続き働きかけていきます。

質問：飯山市はふるさと納税を13億円と大幅に増やした。町は1億いくらかで飯山市の10分の1だ。飯山市をまねて納税額が増えるよう工夫してもらいたい。

回答：ふるさと納税は、本年4,756件、1億4,700万円と増えた。今後も他市町村の事例を参考に研究したい。

質問：インバウンド客増加のため、上林のトイレがきれいになったのは良いことだ。野沢温泉村は、保育園から中学までの一貫教育で英語に力を入れるなど、村を挙げてインバウンド増加に取り組んでいる。小布施町では公衆無線ランを整備している。山ノ内町の取り組みはどうか。

回答：旅館・ホテルのWi-Fi整備に30万円補助し、2次募集も行いエリア拡大に取り組んでいる。小学校の英語科の必修化により、ALTを採用している。

質問：湯香里荘は空き家になって何年にもなり、観光面でマイナスだ。耐震化もされているので放置するのはもったいない。老人施設でも観光施設でも後継経営者を早く見つけてほしい。

回答：施設は適切に維持管理がされているので、直ぐ使える。過去、4件のオファーがあったが一致点がなく契約に至っていない。

質問：引佐^{いなさ}北部小中学校の全国学力テストの成績が秋田、福井より高い理由をどのように先方は判断しているのか。

回答：全校生徒が9学年で、108人。学年当たり約12人の少人数学習が特徴である。また、地域を知る学習のふるさと科とグローバルな人材を育てる国際コミュニケーション科があり、地域から世界に羽ばたく人材が育ててほしいとの理念の学校。地域に一体感があり、子供たちにゆとりを感じた。英語教育に力を入れている点と小中一貫教育が正答率を上げている。

質問 町は34年に中学校の敷地に一校統合を目指す方針だが、これは小中一貫教育を目指すのか、それとも別の教育か。

回答：教育委員会との懇談会の印象では、教育長は小中一貫教育の問題点を挙げていたので、小中連携校に意識があるようだ。議員の中では、一貫校、連携校、34年統合は次期尚早と意見が分かれている。

質問：国民健康保険税改訂案で、応能分の据え置きは、所得が増えれば率がそのままでも税額は増える。応益分を値上げると所得の低い人の負担が増えるが、7割・5割・2割軽減の対象になる。議員がこの案がベストかどうか検討されたと思うが、検討の経過をお聞きしたい。

回答：応益分を上げるのは、7割・5割・2割軽減が受けられるのが、その理由と考えている。町の国保の加入者の平均所得は55万円、1戸当たりで100万円と全国平均より低い。町の医療費は県下64位と低いが国保税は8位と高い。これが値上げすると3位になる可能性がある。その理由の分析は難しいが介護率が高いのが原因ではないか。27年度からの将来の医療費の伸びを4%と仮定して、国保税を試算したら、このように値上げになる。しかし、2%だと値上げの必要はないし、過去に下がった年もある。町から5,200万円の基金を減らさない条件での試算との説明であった。

質問：南小のグラウンドの排水設備の暗渠が半分しかない。全面排水できるよう改良してもらいたい。

回答：実施計画の小学校施設改修事業を見ると、グラウンド改修は入っていない。教育委員会に改善するよう要望していく。

後日回答：教育委員会に要望済み。早期に実施計画に上げていくように引き続き要望していきます。

質問：教員住宅には2名の先生がいるが、断熱が悪く、朝起きると部屋の水道が凍結する。もっと良い環境に改修できないか。

回答：教員住宅の古い棟は30年度の取り壊し予定になっている。跡地利用は、別の場で、移住定住や障がい者施設に使う案が出た。残る住宅の劣悪な条件は改善するよう要望していく。

後日回答：教育委員会に要望済み。現状を調査して対応していただきます。

質問：中学生が年に50人、1クラス単位で減っているの、教員も年1名ずつ減

っている。部活の指導教員の責任が重く、なり手がいなくなり、16あった部活が8に減った。町として地域スポーツ団体が中学生の部活を指導できないか。

回答：クラスが1つ減ると実質的に教員は2人減る。県教育委員会の方針で部活の朝練習が禁止になり、夕方の部活も30分しか練習できない日もある。社会体育で中学生を受け入れる要望はあるが、受け入れ態勢がしっかりしている競技団体とそうでない団体がある。現在、学校と社会体育とが相互で話し合う場がないため、提言しているが学校側が応じてない。議論の場が持てるよう要望していく。

後日回答：スポーツ推進計画（H28）の中で課題を整理し、計画的に反映できるように働きかけていきます。